



ISET-R

森林生態系における放射性物質の移行と 森林管理・森林政策に関するセミナー

日時：11/2（土） 13：00～17：00
場所：筑波大学 総合研究棟 A110



Speaker and Title:

Valery Kashparov

Director, Ukrainian Institute of Agricultural Radiology of National University of Life and Environmental Sciences of Ukraine

Title: Management of contaminated forest and meadow environments in Ukraine based on monitoring data and model predictions

Vasyl Ioshchenko

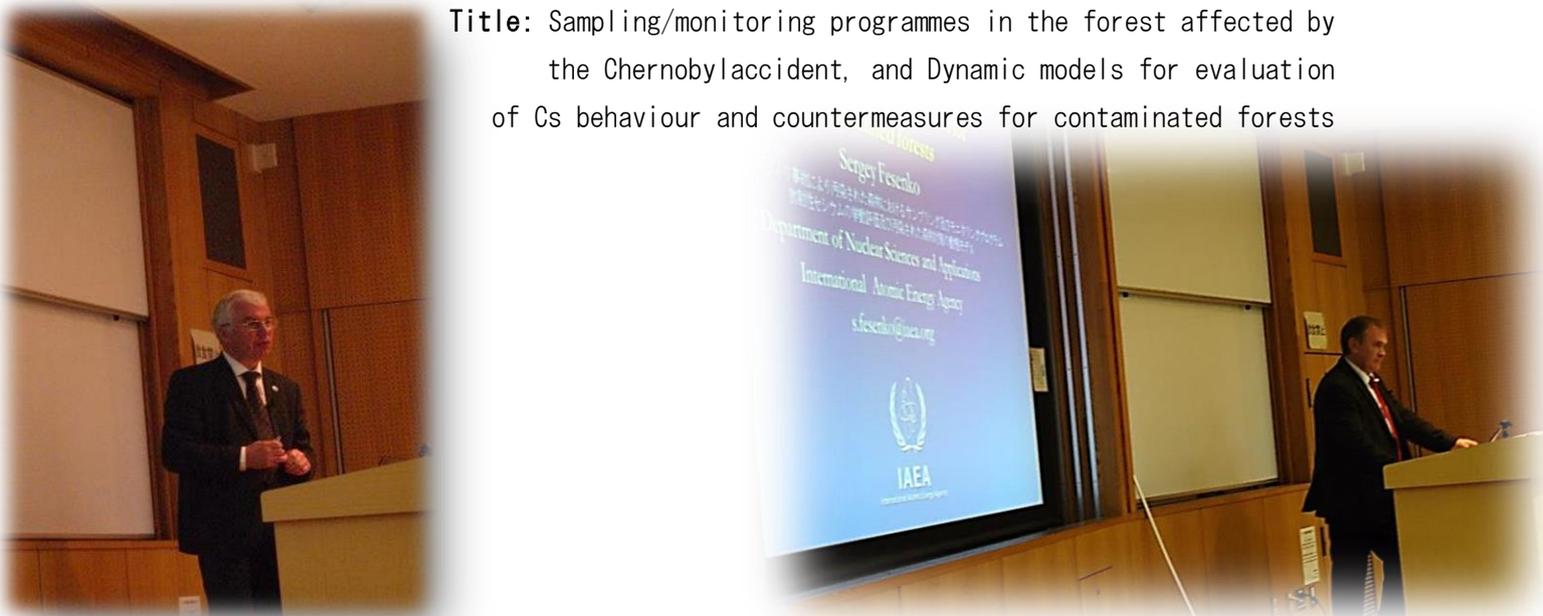
Head, Laboratory of Radioecological monitoring, and mathematical modelling and dosimetry, Ukrainian Institute of Agricultural Radiology of National University of Life and Environmental Sciences of Ukraine

Title: Chernobyl forests: major problems and concerns”

Sergey Fesenko

IAEA, Terrestrial Environment Laboratory

Title: Sampling/monitoring programmes in the forest affected by the Chernobyl accident, and Dynamic models for evaluation of Cs behaviour and countermeasures for contaminated forests





ISET-R

Modelling of Cesium Transfer and Ambient Dosimetry in Forest Systems : Current IRSN Approach and Prospects



日時：11/5（火） 17：30～19：00

場所：筑波大学 総合研究棟 A110

Speaker：

Dr. Marc-Andre Gonze

Institute of Radioprotection and Nuclear Safety (IRSN, France) Environmental
Division

Abstract：

Based on operational models, dynamic of ^{137}Cs and ^{134}Cs was modelled in Japanese forest ecosystem after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. IRSN, a famous French Institute in Nuclear safety, will introduce these results.



森林における放射性物質の移行は、下流環境への影響が懸念されるとともに、木材自体への放射性物質の移行・蓄積が懸念されます。これらの問題に対し、チェルノブイリ原発事故後におきましては、IAEA 主導により、多くのモデル研究の比較が行われてきました。

それにより多くの成果が上げられ、放射性物質が降下した森林の管理のあり方に対する提言も数々なされております。

その中でもフランス放射線防護原子力安全研究所（IRSN）は、独自にモデル開発を行う等、放射性物質の環境中での移行・蓄積の調査の中心的課題となっています。これに対し、我が国においては、材木の放射性物質規制値も定まっておらず、既存の科学的知見を基にした事故対応が未だなされていないのが現状です。

そういった背景を受けて、今回、筑波大学 アイソトープ環境動態研究センターおよび福島大学 環境放射能研究所の協力のもと、チェルノブイリ原発事故後における放射性物質移行調査、移行モデルを主導した IAEA Sergey Fesenko 氏、ウクライナ農業大学 Valery Kashparov 氏らのセミナーおよび IRSN の移行モデルについて包括的に議論できるセミナーが企画されました。

なお今後の予定としては、ウクライナ農業大学の研究者が 2 年間、福島大学 環境放射能研究所に滞在して共同研究を行う予定となっています。

IAEA Terrestrial Environment Laboratory についても、国際共同研究を行う方向性となっております。

IRSN におきましては、筑波大学 アイソトープ環境動態研究センターおよび福島大学 環境放射能研究所と共同研究を 11 月からスタートの予定です。

今回のセミナーには多くの参加者が来場し、2 セミナー両方ともに参加された方も多く、本研究への関心の高さが窺えました。

2 つのセミナーが成功を納め、各研究機関との密なる関係性を築きあげることができたことから、今後更なる共同研究の発展が期待されます。